

瀬戸石ダム・発電所の状況について（2024年12月）

瀬戸石ダム・発電所(熊本県葦北郡芦北町・同球磨郡球磨村)について、流域の安全・安心に向けた取り組み状況をお知らせします。

1. 瀬戸石ダム 事前放流による水位低下【資料1】

瀬戸石ダムでは、大きな出水が予想される場合に、2020年5月に河川管理者、ダム管理者および関係利水者との間で締結した「球磨川水系治水協定」に基づき事前放流を実施し、調整池の水位を低下させ空き容量を確保するとともに、通砂／排砂により同容量の維持・拡大を目指す運用を実施しています。

今年度は8月の台風10号において、事前放流により容量の確保に努めました。

また、これまでも大きな出水となった2022年9月の台風14号や2023年8月の台風6号において、事前放流により容量の確保に努めました。

なお、2023年度からは、6月～9月の間、通砂／排砂運用によりダム水位を更に低下（最大容量680万 m^3 から870万 m^3 に拡大）させる運用を開始しています。

2. 瀬戸石調整池の堆積土砂排除等【資料2】

今年度は、約4万 m^3 の土砂排除を11月中旬から開始しており、来年3月31日まで実施予定です。

排除した土砂のうち3.5万 m^3 は国の公共事業に提供する等有効活用への協力を行います。

また、今年度は既に土砂仮置き場から国の公共事業に約7.0万 m^3 の土砂を提供中であり、合計で10.5万 m^3 となる予定です。

最新の調査による堆積土砂量は、2012年度のピーク時から約7割減少しています。

今後も土砂排除や出水時の通砂/排砂運用により堆積土砂の低減に努めてまいります。

なお、当社ホームページにて、「通砂/排砂運用情報」等が確認できます。

(閲覧方法)

右のQRコードを読み込んでいただくか、
次のURLからご覧ください。



https://www.jpowers.co.jp/bs/renewable_energy/hydro/seto/safety.html

3. 下流警報設備の改善 【資料 3】

「令和 2 年 7 月豪雨」（2020 年）で被災した下流警報設備について、翌年の出水期前（2021 年 5 月末）までに復旧し、その際、可能な範囲で装置の取付け位置を高くする対策を行いました。

加えて、「令和 2 年 7 月豪雨」と同規模の出水が発生した場合、浸水するおそれが残っている一部の警報設備を、より高い場所に順次移設することとしています（2026 年度完了予定）。なお、移設完了前に大規模出水が発生する場合も想定し、仮に浸水により警報設備が使用できなくなった場合でも、洪水量 $2,000\text{m}^3/\text{s}$ 以上が流下時に点灯する 5 色表示の警告灯（パトライト）を設置済です（移設済の 2 局を除く 11 局）。

4. 瀬戸石ダム安全性 【資料 4】

2024 年 9 月に実施した変位測量等の結果においても、特に変化は認められず、ダムの安全性に問題は無いことをあらためて確認しています。今後も調査・確認を継続してまいります。

5. 瀬戸石ダムの連絡橋の通行

連絡橋の補修は、上下流の道路・橋の復旧状況を踏まえ、2023 年 10 月より開始（工事完了は 2026 年 5 月を予定）しています。

工事期間中は全面車両通行止めですが、6 月 1 日から 9 月 20 日の間は許可車両・緊急車両のみ通行可能となります。

当社は、今後も流域の皆さまの安全・安心のために必要な対応や改善を継続しながら、発電所の安全運転に万全を期してまいります。

以 上

<添付資料>

【資料 1】 瀬戸石ダム 事前放流による水位低下

【資料 2】 瀬戸石ダム 堆砂量および堆砂排除計画

【資料 3】 瀬戸石ダム 下流警報設備の改善

【資料 4】 瀬戸石ダム ダムの変位測量